

7. 同窓生からのメッセージ

愛すべき時代たち

東海支部長・機械工学科 1 期 一里塚 博

我々栄えある(?) 1 期生の学生生活は、愛すべき「おばけ屋敷」から始まりました。そう、入学式で待ち受けてくれたのは、旧造兵廠を急改装した建物たちだったのです。特に学生寮は、日々の暮らしに不要な部分は戦前のまま。地下や三階は立入り禁止のベニア板で塞がれていました。でも、好奇心溢れる少年たちはよくこの禁を破って地下に入りました。かびの臭いが充満する漆黒の闇はやはり異様で、父から聞いた造兵廠の歴史を思い出し、足が竦んだものです。闇から訪れたネズミに、寝顔をかじられた寮生もいました。

寮には、まるでローマの大浴場を思わせるような(粗末だが)大きな風呂があり、1、2 期生がまさに裸の付き合いをしました。昼食はもっぱら「マルタイ・ラーメン」。いったい何食食べたことでしょう。部屋同士の妙な戦いもあり、ほかの部屋に引き込まれては服を剥ぎ取れました(まあ、一種のゲームです)。でもルールは守り、勉強はよくしました。

そんな我々に一大事が訪れました。ビートルズの来日公演がテレビ放送されることになったのです。しかし放送は学習時間。テレビ室は施錠されています。今ならビデオに録画すればすむのですが、時代が違います。真面目な(?) 我々は大いに悩んだのです。

その夜、どうしても見たい有志は、隣部屋から雨トイ伝いにテレビ室に侵入しました。テレビ室は二階。しかも雨トイは戦前のまま、もう腐っています。今思うと何と危険で無謀かとぞっとさせますが、若かったのですね。思い切り小さな声で見たビートルズ

は本当に感動でした。その後ばれたのかは、記憶が曖昧で分かりません。

懐かしい「おばけ屋敷」は、今はもうありません。でも、そこでの 2 年間は 1、2 期生の特権として思い出に残ることでしょう。

そして新しい校舎で、私は一生を左右する先生に出会います。岩淵先生です。要領の良さで授業をこなしていた私に、鉄槌を下した最初の先生でした。いつものように、きちんと作成した計算書と綺麗に描きあげたエンジンの製図を見た岩淵先生は、「これでは製品は造れない」とあっさり言われました。実はクランクを回すと壁に当たる図面になっていたのです。

「教科書どおりでなく、実際に製品がどう使われるのかをよく理解して図面を描かないと、ただの絵にすぎない」

私の人生最大の後悔は、急逝された恩師に卒業後一度もお会いしなかったことです。でも、この言葉をそれからの人生で忘れたことは一度もありません。高専 40 周年を機に、愛すべき時代たちを懐かしく思い出し、高専発展に尽くして下さった方々に心から感謝すると共に、後輩にもこの言葉を送りたいと思います。



機械 1 期の一里塚氏(右)と土井氏の両雄
ロボコンちゃんこにて、一里塚氏印税を関東支部に寄贈

惑わず、母校に感謝す！

関西支部長・機械工学科1期 甲斐田 敏

緑なす志井の台地、石拾いも頑張った部活、後輩との賑やかな寮生活、一升瓶を抱えた山越え、ちょっと恥かしかった小倉駅前での御輿デモ、35年前3年間の私の雄志台での懐かしい一場面です。10年程前に高専祭を訪ねた時は変わっていました。モノレール、回り一帯の家々、留学生、女学生。一番驚いたのは、案内願った女学生が同期生の娘さんであったこと。時代を感じました。でも変わらないもの、嬉しかったこと、それはおじさん然とした私にも、後輩皆から快活に挨拶してもらえたこと。心は変わらず伝わっていると感じ入りました。それと、友、恩師との再会、一瞬にして35年前のお前と俺の世界にタイムスリップしました。

私達1期生は好き勝手に、ひょとしたら後輩に迷惑ばかり…。だのに昔はラグビーで、今はロボコンで後輩が活躍してくれ、鼻高々で嬉しいものです。

半生を終え、九州を離れて当地神戸での生活の方が遥かに長いのに、振り返ると更に高専時代の懐かしい情景が浮かんできます。

関東から、九州からの風のたよりはあるものの、私自身同窓生にもあまり会っていません。みんなどうしているかなあ…。それぞれに人生があり、仕事に、趣味に生きた人、社会で活躍している人、頑張っている人、でも再会すれば昔に戻って分かち合える同窓生、それこそが高専時代の良き財産だと思っています。

幸いにして、私は卒業後一環して神戸の会社に勤めることができ、私生活もあと一步まで漕ぎ着けました。荒波もありました。関西で忘れられないのは、10年前の阪神大震災です。なぜ天は弱いものを苛めるのかと、見慣れた光景がズタズタになったのを目のあたりにして涙したものです。その神戸もほぼ

復興し、来年は神戸空港も開港します。失ったものが余りにも大きすぎて立ち直れない人もおられるのでしょうか、情景ははそれを忘れるかのように変貌していきます。雄志台の今後の大いなる発展も願いますが、その中で高専生たる生き様が継承され、優しい心が息づくように思いたいものです。そして、自身は学生時代に夢みて果たしえなかった海外放浪をこの年になっても夢見ているこの頃です。英語をもっと勉強していたらよかった…。徒然に、思いのままを書いて、しじゅうにして惑わず、母校の有り難きを改めて知りました。

最期に、私は関西支部長を拝命しながら十分活動できなかったことを、この場をお借りして各位にお詫びし、次の関西支部長の下で世話係でもやらなくてはと思っている次第です。

今後の母校の更なる発展を祈ります。



同窓会二次会（焼鳥本陣）で関西支部長あいさつ



Jungfrau を背に (at 3,400m)

最近の関東支部行事参加報告

機械工学科 1 期 土井 治朗

三菱自動車で地球温暖化や大気汚染防止を担当している 1 期機械の土井です。今日は、最近の関東支部行事参加報告をします。

5 月 28 日、29 日の一泊二日で、会津高原で同窓会関東支部のゴルフ・コンペ。今回は 12 名参加。浅草から会津高原の往復は、ビールを片手にそれぞれの近況から昔話に、話しは尽きない。おかげで、会津高原に着いた時は、足元も怪しいほどの状態だったが、6 期生の井尻さんのペンションで一服後、近くの温泉で英気を取り戻し、夕食時には見違えるほど元気を取り戻し、翌日のコンペも忘れて、夜遅くまでカラオケで声を嗄らすまで歌った。翌朝、高杖カントリークラブでのゴルフ。結果はさて置き、それぞれのプレイに一喜一憂。この所の打ちっぱなしの成果が現れたのか、幹事のはからいでたっぷり頂いたハンディキャップのおかげで、小生が優勝してしまった。今年は、小出君が九州から東京に転勤になり、その歓迎と 6 期生の長野さん（元同窓会会長）の学校表彰のお祝いを兼ねたコンペだったが、小生には思わぬ誤算で、嬉しい結果になった。一緒に回った入江先生の悔しがることしきり。

関東支部の会津高原ゴルフ・コンペは、すでに回を重ねて早や 9 回。メンバーも増えたり、減ったりはしているが、良く続いている。お世話頂いている歴代関東支部長（入沢、山市、古江、久保の各氏）、幹事に感謝。

長野さんの息子さん（この人も同窓生とは驚き）が、東京勤めになり、親父さんの見送りに浅草駅まで来た。立派な心掛け。見所があります。関東支部の皆さん、せいぜい可愛がってあげましょう。

例年、関東支部は、春秋の会津高原と冬の国技館（ロボコン高専大会）が年中行事化。この伝統は大

変貴重です。大事にしましょう。小生も死ぬまで参加し続けるつもりです。

高専生は、卒業しても、直には決して後ろを見ません。否、見てはいけないのです。わき目も振らず、しっかりと働いた後に漸く振り返ります。その時、やっと自分の過去の大事なものの一つとして、同窓会に有り難さに気が付くのです。「馬鹿を言える友」との語らいの場として貴重なのです。仕事や家庭の厄介ごとを一瞬忘れ、至福の時をご一緒しましょう。

5 月 29 日 会津高原にて



関東支部懇親旅行・尾瀬（中央が土井氏）

中西真佐夫先生のこと

2 代同窓会長・電気工学科 1 期 木下 学

中西先生が北九州高専電気工学科の教官として着任されたのは昭和 41 年、開校翌年のことであった。度の強い丸眼鏡をかけた風貌はわれわれに強烈な印象を与えた。

先生はまず、われわれ 2 年生のために電気磁気学の講義を担当された。われわれはまだ微分積分も知らず、ベクトル解析を駆使した勉強にはまったく手を焼いた。しかし、先生は根気よく説明してくださ

った。今でも先生が声をからして懸命にわからせようと努力されている様子を思い出すことができる。

先生はご自分のことを「先輩」と呼ばれていた。そして、未熟者のわれわれをしばしば一方的ともいえる言い方で注意・指導された。

「おい、靴下を履けよ。先輩に対する礼儀だ。」

「遅刻するな。遅刻するなら休め。遅刻は欠席より悪い。」

今でもこのような言葉を懐かしく思い出すことができる。先生の言葉に反論する学生はいなかった。先生は、今日でいうところの指導力をそなえられていたのであった。

先生のことばで一番印象に残っているのは「偉い人」の定義である。先生は言われた。ことばどおりではないが、

「どれだけ多くの人を幸せにしているかということが、その人の偉さである。」

換言すれば、「より多くの人を幸せにしている人がより偉い」ということになる。そして、口に出してこそ言われなかったが、先生はわれわれに「偉い人になってほしい」と期待されたのだと思う。

先生は優れた工学者であるとともに立派な教育者であったと信じている。

3 Kラグビーを克服せよ

機械工学科 2期 中村幸世

開校とともに創部されたラグビー部も40周年を迎える。昨今は他クラブが隆盛な中、長期低迷、苦戦が続いていると聞く。このような状況下でも絶えることなく、チームを存続させた後輩の頑張りど、関係皆様のご支援に感謝する。

過酷なスポーツ、ラグビーでフィフティーンを確

保、維持することは容易ではない。各年代で、どれだけ多くの血と、汗と、涙が流れたことだろうか。

創部当初も例外なく、存亡の危機が何度かあった。初勝利は創部4年目、北九州大学の2軍からだった。それまで何連敗したことか。負け続けると内紛も起こる。集団退部、解散、再結成と迷路にはまったこともあった。

この激動期をリードしたのが1期生の田中進さんだ。勝利への執念が人一倍強く、その目的の為には一切の妥協を許さなかった。田中イズムは猛練習を強いる。炎暑の中でのタックル練習はきつかった、痛かった。こんな練習で勝てるのかと懐疑的になりつつも道は一つ、付いて行くしかなかった。勝利を渴望し飢えた精神が、きつい苦しいと悲鳴をあげる肉体を制圧しつつあった。

それだけに初勝利は嬉しかった。池田一徳先生から奢ってもらったチェリオで祝杯、あの味は未だに忘れられない。

高専大会でも負けが続き、初勝利は5期生が入学、全学年が揃った都城大会だった。この新入部員の中に惜しくも早逝した伊倉博史君がいた。彼は先輩、後輩のけじめをつけ礼儀正しいナイスガイであった。しかし試合中は真剣、本気になる。思わず先輩をも呼び捨て、叱咤することがままあった。それが何とも愛嬌があり憎めなかった。彼の細目の笑顔、楽天的な性格は皆を和ませた。その頃からドロロンコ、汗臭い、汚いというラグビー部は強く、明るく、スマート？破天荒なバカ者集団へと変身していく。

しかし都城では準優勝したというのに、帰路の車中はお通夜状態、バカ者達は悔し涙にくれた。もう準優勝では満足できない程にモチベーションはアップしていた。北九州までの長い寡黙な道中、皆がリベンジを誓った。振り返れば、全国3連覇への礎、原点はここにあったと思う。

チームが強化された大きな要因は、格上チームと

数多く対戦できたことだ。強豪にぶつかり、初めて弱点が見えてくる。北九州社会人リーグに加入、大人のアタリにもまれた。全国高専の中では一番恵まれた環境にあったと思う。しかし、それと共に負傷者も続出した。鍛錬されたデカイ自衛隊員への正面タックルは壊される、潰されると恐怖さえ感じた。

強化＝ケガ、この両刃の剣の中で皆が思い切りラグビーに打ち込めたのは、経験豊富な池田一徳先生から見守っていただいたおかげだ。ケガをして迷惑をお掛けせぬよう体を鍛えることが、更なるレベルアップにつながった。自主性を育む先生のご指導方針の中、独自の自由奔放ラグビーが成長していった。あの時のチェリオをまた飲みたい、その欲求が次の勝利を導いた。見捨てず、ご指導いただき本当に有難うございました。

現役諸君、ラグビーはきつい、汚い、危険の3Kスポーツかも知れない。だからこそおもしろい。だからこそ鍛えよう。若い、夢ある学生の君達だからこそチャレンジできる。

3Kを克服してラグビーを楽しもう。そして目指せ全国優勝。



九州大会、優勝カップを手にしているのが中村氏

そろそろ、僕らは引退組



機械工学科 2期 平野 達郎

母校創立40周年のお祝いを申し上げます。第2期生として入学し、小倉での仮校舎、出来たての校舎と小石混じりのグラウンド、小倉駅への汽車の路線、卒業研究での実験、秋の高専祭等々を懐かしく思い出しました。

卒業後、三菱重工(株)に入社し、名古屋へ赴任。時代の移り変わりと共に、名古屋地区にある4つの事業所を転々とし、コンピュータ制御設備の建設、空調機の量産設計、戦闘機及びミサイルのライセンス設計を業務とし、ロシアの突然の崩壊と共に防衛予算の削減に伴い、一時期、子会社へ出向、その後、復職。

平成11年3月には同窓会東海支部結成式の開催のお手伝いができ、当時の坂本校長先生他8名の先生方と同窓会役員方を名古屋にお迎えし、盛況に行われました。その翌日、急遽、皆さんと共に、名古屋市内見物バスツアーに参加し、楽しかったことを思い出しました。そして、平成14年2月には就職又は進学をひかえた機械工学4年生に対し、厚かましくも先輩又は社会人としての講師として、このとき、初めて小倉駅からモノレールに乗って、10数年ぶりに、母校を訪ね、周辺の都市化と女子学生の多さに驚きました。僕らの在学中の女子学生はわずかに3名だったのに、。。。。。

もうあれから、本当にずいぶん経ったものです、

そろそろ、僕らは現役引退組のようです。最近では三菱といえど不祥事の会社といわれ、かつて、大企業の多くは優れた人材を多く育ててきたが、今はどうもそれも怪しくなってきた、おしなべて、皆、自分のことだけで精一杯。今年の4月に早期退職を選択、そして、6月には一人娘が結婚。年を取るのは癪に障るので、年を重ねることとし、これまでは時代の波に翻弄されてきたので、これからはその傍観者として、じっくり、社会の変化を楽しませてもらうと思う次第です。

現在は時代の変化が激しく、又熾烈な競争社会であり、これから社会へ飛び立つ若者にとってはさらに厳しい時代のようなようです。社会へ出ても勉強に怠り無く、くれぐれも、ご用心下さい。

北九州高専創立40周年記念に寄せて



3代同窓会長・機械工学科3期 吉田 充

今年、北九州高専が創立40周年を迎えることを知り、大変うれしく思っています。前回の創立25周年記念事業から、もう15年も過ぎたのかと思うと驚きを感じられずにはられません。

前回、私が参加した25周年記念事業の頃は同窓会活動が資金的な面や人材の面で非常に低調な時期でした。そうした中、創立25周年記念事業を控えた2～3年前のことだったと思いますが、当時の校長と記念事業のありかたについて話し合いを持

ったことがありました。当時の同窓会として財布の中を掻き回した結果得られた答えは、図書館への図書の寄贈でした。しかし、当時の校長の意見はNOでした。創立25周年は、次の50周年、75周年、100周年と同様大きな節目に当たるものだから、大掛かりにやらなければいけない。そのような内容でした。

同窓会は最初の卒業生を送り出した後、3年ほど経ったとき（北九州高専創立8年後頃）に設立されました。しかし、創立25周年を迎える頃には組織が弱体化し、沢山の同窓生を集め小倉ホテルで開催された設立当初のような同窓会総会開催はおろか、その前段階の理事会すら満足に運営できない状態に陥っていました。

このようになったのは、同窓会長として私自身の力の無さと財政基盤の脆弱さ、そして、人材の不足が原因だったと考えています。設立当初の同窓会は、入会金と年会費で運営することになっていました。しかし、入会金は卒業生の記念品と壮行会費用でほぼなくなり、後は同窓会の方々からの年会費が頼みでしたが、その年会費も送金して頂ける方々が少なく、はがき代等の事務費を差し引くとあまり手元には残りませんでした。また、人材の面においても、設立時の理事全員が熱心だったわけではなく、たまたま地元に残っていたために理事となり、一度も理事会に出席しなかった方もいました。

同窓会のように会員のボランティア精神で成り立つ組織においては、同窓会総会のような目標を定め、それを計画実行していく中で組織の充実を図って行くのが理想と思います。そのためには、総会を開いて赤字となってもまだ1～2回は開催できる財政基盤と真に同窓会活動に協力してくれる多くの方々の存在が、同窓会には必要です。

しかし、当時の同窓会にはそれがありませんでした。創立25周年が迫るにしたがって焦りと苦悩の

日々が続きました。こうした中、学校当局が創立25周年記念事業のため学校の組織を使った強力な体制作りに動き始め、さらに電気工学科1期生の小出先輩が創立25周年記念事業実行委員会の長となったことで、事態は急展開を見せることとなりました。精力的に動いた学校当局と実行委員会の努力により、ねずみ算式に協力の輪が広がっていきました。

その後、創立25周年記念事業は大成功に終わり、その際生じた剰余金は学校での研究活動に使用されることとなったと聞いています。

創立40周年記念事業をするには、大きなエネルギーが必要です。これに向け活動されている同窓会長を初めとした事務局の方々の努力が報われ、成功に終わることをお祈りいたします。

40周年おめでとうございます

電気工学科4期 中村 哲也

学生時代を振り返ると色々な事がありました。当時はいまだ高専が社会に認知されていなく、自分自身の置かれている立場「高専生」を理解出来ず、がむしゃらに好き勝手放題の毎日だったと苦笑する次第です。高度成長の期待を担った専門学校として今は理解しています。幾つか当時の記憶に残っていることを思い出しながら執筆します。

入学当時は勉強が嫌いで入沢親分「1M」率いるバレー部に入り夜遅くまで練習をしたことを思い出します。試合も近郊の高校、大学を相手に何時も負けていたものです。体育館は何時も剣道部とバスケット部の独占でした。3年生の頃テニスコートの一段下だったと思う空き地をみんなで整地しゴールも木製手作りで、シュートの度に倒れるものを使用するような環境の下、ハンドボール同好会を作り、初代キャプテンをやらせていただき楽しく活動し

ました。これも全敗でした。

その頃、バス停の前にあったカレーと焼きそばの小さな店に通い、お腹を満たしたものです。今でもあれば懐かしい味で、行きたい心境です。小倉駅近くの「龍のカレー」と「はるやのうどん」も懐かしいものです。4年生では桑原先輩の後、第3代目の学生会長を引き受け、大変だったことを思い出します。

当時は学生運動の盛んな時でノンセクトの私はクラブ活動に重点を置き看板的スポーツ、ラクビー部に予算の多くを配分し、他の部から非難を受けたものです。高専祭の集客の目玉として魚町銀座街で初めて市中行進して私の両脇に警察官がいて「ジクザク行進したら即逮捕」と脅されたものです。5年生の時は青田買いの時代で大手電器メーカーに簡単に内定し、4Mの香月氏、現在JR博多駅長と卒論も忘れ社会に順応するため、飲食街を研修のため詳細に分析し熱心に廻ったことを思い出します。お陰様で社会のため、人のため、そして自分のために基本に20年強サラリーマンになり、現在は独立して技術商社を経営しています。

40年の月日の速さに改めて驚いています。同窓会にあまり関心を持たず、目の前のことで精一杯だった事を反省しています。事務局の皆さんの努力に頭が下がります。昔の思い出話をさせて頂きました。当時の学生会のメンバーで撮った写真がありましたので送ります。



上段左から3番目が筆者（平尾台への歩行大会）

創立40周年によせて

機械工学科3期 松尾辰彦

創立40周年おめでとうございます。

社会に出て30有余年経ちますが、母校が創立40周年を迎えるのは感慨深いものがあります。学生時代の思い出の中で多くは既に記憶が風化しつつあります。しかし、15歳から20歳までの青春を過ごした時期ですから、忘れもしない記憶として今も残っているものもあります。

入学試験は確か仮の校舎（小倉造兵廠？）、入学式は新たに建設された現在の校舎で行われたと記憶しています。その入学式の思い出は降りしきる雨です。新しく出来た校舎であり、周囲の道も舗装はされていない赤土の道、交通機関（バス）の本数も少なく、入学式後の帰宅の際は長蛇の列が出来ました。

自宅が若松区にあったので、1年生から寮生活を始めましたが、寮の廊下には雨による高湿度の影響か、水は浮いてくる状況で初めての夜は空しい思いをしたものです。その頃は4人部屋（今も有るのかわかりませんが）で2段ベッド、上段で寝ていると、寝返りの時にはよく床まで落下しましたが、気づかずそのまま寝ていたものです。

その頃の高校生はほとんどの場合、校則で丸刈りとなっていました。長髪が許され、私服通学も可能であったと思います。自由をいち早く手に入れた感覚がありました。

在学中の社会情勢は1969年の東大安田講堂を全学連が丸一日占拠するというような時期でした。われわれも無縁ではなくデモや集会などに参加していました。

授業の思い出は色々あります。旋盤実習の時によそ見をして主電源を投入した時に充電部に左手が触れ200Vが体を横切った事、溶接実習の時、苦

労して作った箱の溶接部から水漏れが止まらなかった事、製図といえば、製図板にT定規、今のようにドラフターは使いませんでした。烏口、今でも使っているのでしょうか？4年生の時には夏休みに企業で実習というのがありました。神戸の会社へ行き、給与計算のプログラム実習を行いました。入力用紙が穴あきのカードであったことを覚えています。

岩渕先生の思い出ですが、卒業研究でお世話になりました。研究テーマが『冷凍機の性能特性研究』でした。今でも手元に黄色くなった手書きの資料が残っています。烏口ではなくロッドリングを駆使して作成したのを昨日のように思い出せます。就職の時、大阪の冷凍機専門の会社に行きたいと言ったところ、『冷凍機の会社にチャレンジするのなら、ダイキンに行きなさい』と言われた事で、現在の私があると言えます。ダイキンは岩渕先生の前職でもありました。

創立40周年はひとつの通過点と思います。北九州高専が、50周年、100周年と今後未来永劫に発展する事をお祈りして筆を置きます。



尺岳への登山・上段中央が私、右端池田先生

関東支部から

関東支部長・機械工学科5期 久保 安弘

40周年おめでとうございます。

入江先生から「40周年記念に何かやりたいですね。」といわれ、ふと考えると30年も学校はおろか北九州に帰っていないことに気づきました。

卒業の翌年2月、母が急死し、その後父が愛知県東海市へ居を移したことで、勤務地も川崎、東京、名古屋、新潟、東京と、九州にほとんど縁がなかったことから、脚が遠のいていました。母の葬儀後、学校を訪問し、故岩渕先生と面談した際「九州弁が直っていないの～。早く直せよ。」といわれ、その後話し言葉に注意していた時のことを思い出しました。

名古屋勤務時、故伊倉君（当時三菱自動車京都）と上野君（JR西日本）から関西支部立上げ懇親会への誘いがあり、大阪で懐かしい方々との再会を果たすことが出来ました。その時、故岩渕先生とも再会し、「九州弁は出てないな。」といわれた言葉が最後でした。

新潟勤務時、入沢先輩から再三電話を戴き、代々木での関東支部総会に参加させて戴きましたが、この時上杉先生とお会いした最後になりました。

5年前約20年ぶりに東京勤務となり、同窓会行事へのお誘いを戴きましたが、故岩渕先生・故上杉先生の事が思い出され、躊躇していました。入沢先輩からの強引なお誘いで出掛けたところ、当時初対面に近い方も多かったのですが、皆さん数十年来の付き合いのように接して戴き、また懐かしい九州弁で我々の知らない小倉城近くの仮校舎や寮の話で盛り上がっていました。殺伐とした都会での生活に少し疲れていましたが、「懐かしい故郷」に行ったように感じ、それからは出来るだけ同窓会行事にも参加するようになりました。

関東支部では、春・秋2回会津旅行（6期機械：井尻君経営のペンション）を行っています。1泊2日の温泉・観光・ゴルフ付きですが、ほとんど50代の方が多いのにもかかわらず、皆10代後半の元気でいつもビックリしています。

また、この数年「あばうた〜ず」の全国大会出場も続いており、11月末の国技館応援も恒例となって来ました。

私は今古江君の後を継ぎ、関東支部の世話役を沢山の方々の支えの下、やらせて戴いておりますが、この元気な先輩諸氏がみえる限り、また後輩たちの東京での全国大会出場が続く限り、同窓会関東支部行事を継続して行きたいと思っています。



ロボコンちゃんこ二次会（右手前が久保氏）

祝創立40周年

機械工学科6期 露口 浩二

創立40周年おめでとうございます。学校関係者の皆様、同窓会事務局の方々にもお祝い申し上げます。これを機に同窓会事務局の方で会報を発行されることになるようですが、現在米国に駐在員として派遣されている私にもお祝いの原稿執筆依頼がきました。私もこれを機に学生時代を振り返ってみることにしました。

私が入学したのは昭和45年ですが、当時は高度

成長期の真只中であり、大学と高校の間の位置付けで会社の中の中堅技術者を養成する学校として新制高等専門学校が設立されつつある頃であったと記憶しています。そのような状況下、私はあまり勉強が好きではなかったし、できたばかりの新しい学校で、また大学受験がなくていいやぐらいの軽い気持ちで北九州高専を受験したのを思い出します。そして、入学してからは、元来勉強が好きではなかったのと自由な校風に甘えて学校にはあまり行かず遊びほうけていましたが、両親もよく我慢してくれたものだと同世代の子供を持つに至ってようやくわかる親の有難さでありました。

当時を振り返ってみるといろいろと思い出してきました。パチンコの20世紀 FOX、おみき茶屋の百円のカツ丼、つるは質屋のすずめの巣頭のおばさん（優しい人で、何でも預かってくれて、計算尺は500円でしたが、何本持って行ったことか・・・）、龍のカレー、明治会館の下の天ぷら定食、喫茶店フルールのモーニングセット、三萩野のトラ屋の10円カレーパン、最後の2ドル、高専祭、ラバーソウル、体育祭、授業料の滞納（最後は1年分ぐらい滞納していたような?）、「試合では勝ったらいけん」と言われた剣道部の岩永先生（負けて得るものがあるとの意味だが、それを純粋に信じてあまり勝てなかった）、数学の塚本先生の脅し文句（君、こんな成績だと落ちてますよ！・・・、結局最後は49点の欠点だったような?）、応用数学の宮浦先生（優しい先生で、試験中にいくつかヒントをもらってそれだけで欠点を免れたような?）、卒研の岩渕先生（本当は絶対に行きたくない研究室だったのに、松村先生の内燃機関のテーマと間違っって入ってしまった・・・）、寮で起こった事件（内容は書き難いが）・・・等々、懐かしく思い出されます。

遊んでばかりいた学生生活でしたが、剣道部に5年間籍を置き、授業に出ない時でも取り敢えず剣道

の稽古には通っていたような気がします。当時の剣道部はあまり強くはありませんでしたが、小西キャプテンと青木先輩（現同窓会長）らを中心にみんな仲が良く、夏の高専大会で旅行できることや夏休みのキャンプなどが楽しみでありました。またある時は、道場で鬮鍋をしていて道場の床を焦がした・・・ことなどが、懐かしく思い出されます。その当時の剣道部のメンバーや他のクラブのメンバーとは今でも付き合いが続いており、年に2回開催される小西杯ゴルフコンペで学生時代に戻って楽しんでおります。

学生時代に得られた良き先輩、同輩、後輩の皆さんと共にこの先も楽しんで行けることを願っている次第です。その小西杯（第20回：2004年12月開催）の写真を送ります。後列右から3番目が筆者です。



入会基準が厳しい小西杯



シカゴにて（右端が筆者）